

LPガスCP速報(2023年7月積)

1. 7積みサウジアラムコLPガスCP

プロパン400^{ドル} (前月比-50^{ドル}) 2020年10月以来安値
ブタン 375^{ドル} (前月比-65^{ドル}) 2020年9月以来安値

① LPガススポット市況等

LPガス市場をみると、不需要期入りで需要が低迷するなか、産ガス国の供給は潤沢、市況は原油価格の軟化もあり大幅な続落となった。極東諸国、インドの在庫が高いところへ、フレートが急騰、中東FOB市場は、買い手を失う一方、米国産カーゴの入着は堅調で、OPECプラスの減産もLPガス供給は削減されず、イランの輸出も増加するなど需給緩和が際立った。他方、市況を下支えしたのは中国PDH向け需要だが、クラッカーはじめ石化のマージンは芳しくなく、特にブタン付カーゴに買い気がなく、市況は軟化した。極東CFR市況は、第4週に反騰したものの、第3週にはプロパン470^{ドル}、ブタン420^{ドル}まで値を沈めていた。

米国市場をみると、輸出は引き続き好調(グラフ③)も需要は不需要期入りで低迷、全米プロパン在庫は増加し前年同期比4割増しで、5年平均レンジを上抜けている。モンベルビュープロパンスポット価格は、原油市況の下落と高水準在庫から続落、上旬は300~325^{ドル/ト}と堅調に推移していたが、中旬以降300^{ドル}を下回り、中東市場の軟化もあり、月間平均は前月比35^{ドル}以上続落し295^{ドル/ト}どころが見込まれている(グラフ①参照)。

フレート市況は続騰した。5月に産ガス国系のトレーダーがVLCGを10船以上チャーター、船舶需給がタイト化していたが、7月積みでも8~9船を確保、インド勢も傭船に動き、第4週には再び120^{ドル}まで上昇した。米国市場も船舶需給がタイト化し、中東から向かう船も増えつつあるが、米国~日本の市況は180^{ドル}に達している。パナマ運河の滞船日数は6月初めまでは2~4日程度に落ちていたが、乾季の喫水制限もあり、1週間程度に徐々に増加してきた。

ナフサ市況は軟化、月間平均は前月比50^{ドル}の大幅続落で547^{ドル}どころ。原油市況の軟化と石化需要低迷で調整局面が続いている。

バンカーオイルをみると、シンガポールIFO380は月間平均で前月比8^{ドル}続落の443^{ドル}どころとなった。一方、LSMGO(低硫黄マリンガスオイル)は同23^{ドル}反騰の713^{ドル}どころ、ガスオイルとC重油との格差は270^{ドル}に拡大した。

7月CPは前年同月比プロパン325^{ドル}、ブタン350^{ドル}それぞれ下落。原油(アラビアン・ライト)熱量等価換算(下記参照)では、前月に比べプロパン7ポイント、ブタン10ポイント下落、前年同月比ではプロパン12、ブタン16ポイントそれぞれ低く、過去最低水準。

	第1週	第2週	第3週	第4週	平均
フレート	120	100	110	120	113
CP先物指標:P	455	445	440	430	443
CP先物指標:B	445	425	415	410	424

② 原油市況等

6月の原油市況は小動き(やや軟化)となった。OPECプラスの会合で、サウジが自主減産を打ち出し、減産の枠組みを2024年末まで延長することで合意、WTIは72.53^{ドル}まで上げたが、世界経済指標は振るわず、欧米の金融当局が追加利上げを示唆したことで、景気後退懸念から、22日には再び70^{ドル}割れとなった。穀物市況の高騰で上昇する場面もあったが、ゴールドマンサックスの原油価格見通し引き下げも重しとなった。ロシアを巡る混乱(プリゴジン反乱)にも市場は素通りし、現在、原油市況を支配するのは、ファンダメンタルズの需給や地政学上のリスクではなく、マクロ経済であると指摘する向きもある。原油先物市場(WTI)をみると、期近3ヶ月は、需給タイトを示すバックワーデーション(期先安)からコンタンゴ(期先高)に転換している。市場は世界的な需要回復の確証を待っている。

○6月積みアラビアン・ライト(6月1~26日までの想定)は77.31^{ドル}(前月比-0.42^{ドル})

熱量等価AL100% プロパン633.86^{ドル/ト} ブタン625.17^{ドル/ト}

AL比 プロパン63.11% ブタン59.98%

*上記ALはE I N推計、確定値は後日Webサイトでご確認ください。

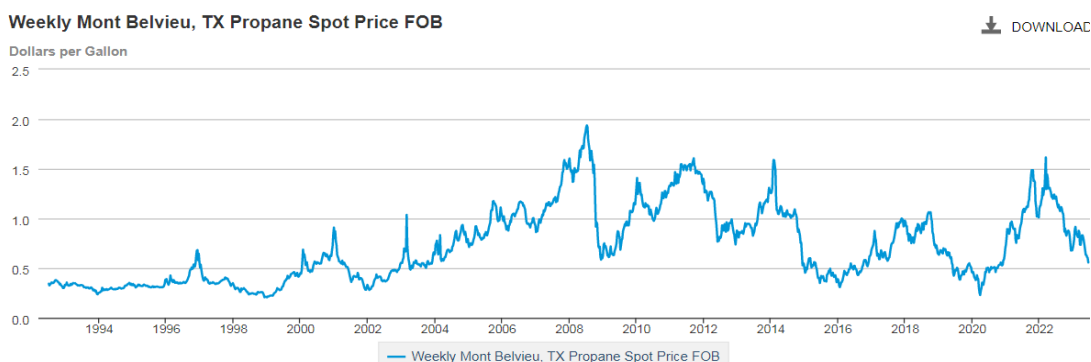
2. 2023年7月LPガス仕切（CP・MBコスト変動分）への影響

適用為替	T T S	P円建CFR	B円建CFR	P前月比	B前月比
6月月間	141.77	70,100	68,200	-6,500	-10,100

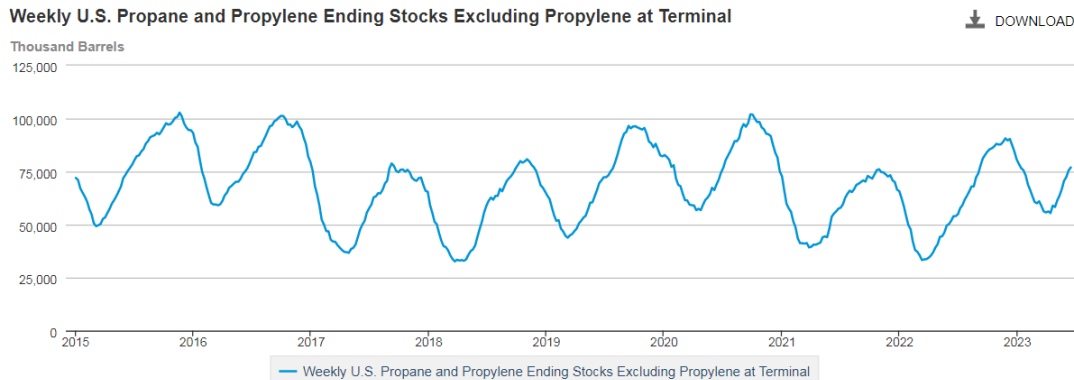
* T T S平均等について、各社の適用為替レートが4月仕切改定から月間平均に統一された。
 上記は6月1~27日までの平均。CPは前月・当月50%案分。プロパンのMB合成の比率はCP70%、MB30%で算定。CFRコストは中東・北米フレートを含むCFRコストを表示。CFRコストには北米の基地経費等も含まれるが各社で異なる。

なお、上記MBは6月23日までの価格を基にE I Nで試算（295^{ドル/トン}）したもので、メーカー各社の最終確定値とは異なる。また、各社の仕切はフレート分、バンカーサーチャージ等の改定やフォーミュラ見直しもなされるため、仕切等の詳細はW e bサイトを参照。

①米国プロパンスポット価格推移

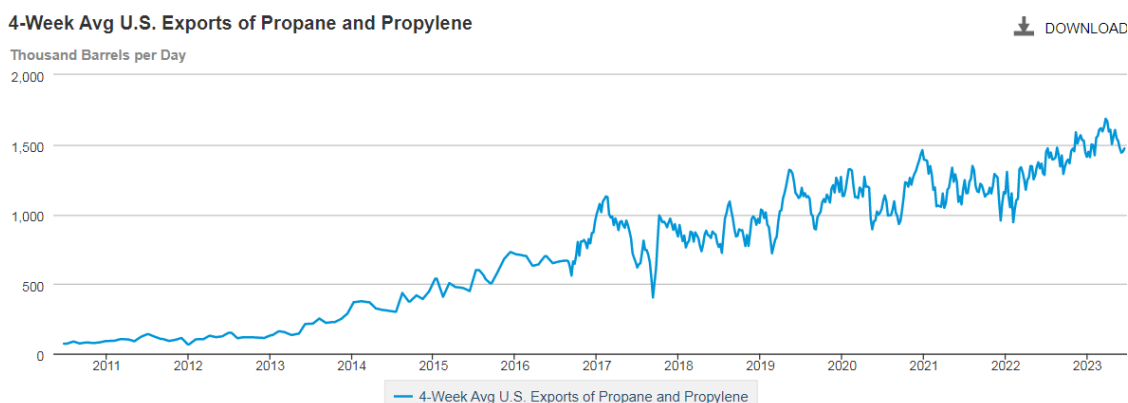


②米プロパン在庫推移



Data source: U.S. Energy Information Administration

③米プロパン輸出量推移



Data source: U.S. Energy Information Administration